

《キーワード》 接着歯科治療、接着性修復材料、齲蝕、MI

《担当者名》 齋藤 隆史 伊藤 修一

【概要】

20世紀初頭にG.V.Blackが体系化した保存修復学は、それ以降の齲蝕治療の規範であった。その後、齲蝕学の進歩と歯質接着性修復材料の開発及び接着技術の目覚ましい発展により、2000年に国際歯科連盟(FDI)は新しい齲蝕治療のガイドラインであるMinimal Intervention (MI：最小限の侵襲による齲蝕治療)を提唱した。

本科目の目標は、講義・実習によって、MIの概念に立脚した新しい齲蝕治療法についての理解を深め、基本的技術を習得するとともに、現在、普及している接着性修復材料の生体材料学的特性及び耐久性などについて理解することである。

【学修目標】

1. 齲蝕及びその他の硬組織疾患の成因を説明できる。
2. 齲蝕及びその他の硬組織疾患の検査法・診断法を理解し、実践できる。
3. Minimal intervention (MI) の概念を説明できる。
4. 齲蝕及びその他の硬組織疾患の予防法を理解し、実践できる。
5. 齲蝕及びその他の硬組織疾患に対する修復法を理解し、実践できる。
6. 接着性修復材料の生体材料学的特性及び耐久性を理解する。
7. 接着修復後の管理を理解し、実践できる。
8. 接着修復関連の基礎研究に用いられる手技を理解し、実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	齲蝕及びその他の硬組織疾患の成因、検査法・診断法		齋藤隆史 伊藤 修一
2	Minimal intervention (MI) の概念		齋藤隆史 伊藤 修一
3	In vitro / in vivo 研究の実際と用いられる分析方法		齋藤隆史 伊藤 修一
4	学会発表・論文作成		齋藤隆史 伊藤 修一
5	抄読会の開催		齋藤隆史 伊藤 修一
6	臨床検討会の開催		齋藤隆史 伊藤 修一
7	学外講師によるセミナーの開催		齋藤隆史 伊藤 修一
8	学会参加		齋藤隆史 伊藤 修一
9	接着修復法実習		齋藤隆史 伊藤 修一
10	担当患者への接着修復治療の実践		齋藤隆史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			伊藤 修一

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物、症例発表

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【備考】

4年次までに認定医取得に必要な症例数の1/3以上を経験する。

【学修の準備】

指示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献購読をしておくこと。